

国際化学肥料ニュース（2025 年 11 月）

肥料業界の 2025 年 11 月動態

- * ブラジルの Brazil Potash 社は同じブラジルの肥料取引・流通会社 Kimia Solutions 社との間に Brazil Potash 社が開発中の Autazes 加里プロジェクトから 10 年間にわたって市場価格で年間最大 70.4 万トン塩化加里を購入するテイク・オア・ペイ契約が締結された。これは Autazes 加里プロジェクトの 3 番目の商業オフテイク契約で、Autazes 加里プロジェクトの年間最大生産能力 240 万トン塩化加里の 91%の販売先が決定された。Autazes 加里プロジェクトの総建設費用 25 億ドル、2025 年末から着工、約 4 年間の建設を経て、2030 年生産開始と計画されている。

- * カタールの国営 QatarEnergy Marketing は、11 月のカタール硫黄価格（QSP）を FOB400 ドル／トンに引き上げた。9 月の FOB 価格に比べて 76 ドルの大幅値上げである。2025 年に入ってからインドネシアなどの強力な需要で硫黄の国際相場が着実に上昇して、カタール産硫黄の FOB 価格は 1 月の 234 ドル／トンから 141%も上昇した。

- * カナダの Nitrogen 社はトリニダードにあるアンモニア工場の閉鎖が商業アンモニア市場に大きな衝撃を与える。トリニダードには 10 か所のアンモニア工場があり、月平均で約 27 万トンアンモニアを輸出している。そのうちの 4 か所が Nitrogen 社の所有で、2024 年のアンモニア輸出量が 100 万トンを超えた。
トリニダードのアンモニア工場の閉鎖が北アフリカなどでの価格上昇のきっかけとなる。Nitrogen 社のアンモニア工場の閉鎖発表前にアルジェリア Solfert 社のアンモニア価格が FOB600 ドル／トンであったが、発表後にすぐ 625 ドル／トンに値上げされた。

- * インドは中国政府によるインドへの尿素輸出を厳しく規制することを受け、尿素の確保に奮起している。イギリスの調査会社 Argus のデータによれば、10 月末現在のインド尿素在庫量が約 690 万トンに達し、8 月末の 350 万トン以降 2 か月連続の増加となった。最新の暫定データによると、10 月の国内生産量 268 万トン、輸入量 160 万トン、国内販売 233 万トン进行いて、在庫増加量 212 万トンである。10 月の国内尿素生産量 268 万トンは 2024 年以来の最高月間記録である。また、インドは 7 月から 10 月にかけて計 4 回の尿素国際入札を行い、600 万トンの尿素を調達するなど輸入量が急増している。市場関係者はインドの IPL 社が数週間以内に新たな尿素国際入札を実施すると予想している。

- * サウジアラビアの Ma'aden 社は予定外で 8 月から緊急停止したアンモニアプラントは 11 月中旬から稼働が再開し、12 月から輸出能力が通常に戻ると発表した。これにより月間 7 万 5000～10 万トンアンモニアの輸出供給量が追加されることになり、カナダの Nitrogen 社がトリニダード・トバコにあるアンモニアプラントの停止に生じた悪影響を一部緩和される見通しとなる。
- * 11 月 6 日、中国政府は今年 4 回目の尿素輸出割当数量枠を 60 万トン追加した。全量を尿素メーカーに割り当てて、11 月 30 日までに輸出申請、12 月末までに輸出される必要がある。今年中国政府はすでに 3 回計 420 万トンの尿素輸出割当数量枠を決定したが、10 月 15 日までに輸出申請、11 月 15 日までに輸出する必要があるため、10 月中旬から中国尿素の工場出荷価格が最近 8 年間の最低水準になった。国内にだぶつきの尿素を捌き、肥料産業を保護するために第 4 回の尿素輸出割当数量枠を決定した模様。
- * 11 月 7 日、インド IPL 社が新しい尿素国際入札を発表した。購買数量は西海岸 125 万トン、東海岸 125 万トンの計 250 万トン、11 月 20 日締め切りと開札、2026 年 1 月 15 日まで船積みという条件である。これは今年インド第 8 回目の尿素国際入札である。前回 10 月 15 日開札されたインド RCF 社の尿素国際入札では、中国政府のインド向け輸出禁止の影響で、43.1 万トンしか契約できず、1 か月以内に再度尿素国際入札を行うわけである。
- * 11 月第 1 週（3～9 日）の尿素国際相場は EU の需要増とインド IPL 社の新しい尿素国際入札を受け、上昇傾向が続く。西半球では EU の貿易商は尿素が 2026 年 1 月 1 日から実施される炭素国境調整メカニズム（CBAM）関税の対象となることを回避するため、買いに走っている。エジプト産大粒尿素の FOB 価格が前週より 50 ドルも上がって、507 ドル／トンとなり、500 ドルを突破した。アルジェリア産大粒尿素も FOB 500 ドル／トンを要求した。大粒尿素の FOB 黒海価格が 420～430 ドル／トン、FOB バルト海価格が 375～385 ドル／トンに上昇する。ただし、南米の需要が落ち着き、大粒尿素の CFR ブラジル価格が 420～430 ドル／トンで安定して、小粒尿素の FOB アメリカ Nola 価格が 385～394 ドル／トンで若干下がった。
東半球では中国産尿素は国内価格の下落を受け、FOB 価格が若干下がったが、中東と東南アジアの尿素価格がやや上がった。
- * モロッコの OCP 社は製品リストに新たな MAP（5-42）を追加すると発表した。一般的な MAP は窒素 10%、リン酸 51%、DAP は窒素 18%、リン酸 46%であるが、粗リン酸の精製工程を省き、アンモニア使用量を減らして、生産コストを削減するために新

たに窒素 5%、リン酸 42%の新型 MAP を開発・生産することになる。その目的はリン酸含有量 46%の重過リン酸石灰（TSP）の代替であるほか、アンモニア原料の輸入価格変動による影響を抑制したいという意向も一因である。

OCP 社はこの新型 MAP をヨーロッパで販売することに重点を置くが、将来的には他の地域でも販売を開始する可能性がある。価格はまだ発表されていない。

* カタールの **Qatar Energy** 社は日本の三井物産との間に 20 年間にわたって、年間 50 万トン尿素を供給する長期尿素供給契約を締結した。**Qatar Energy** 社は 2026 年 1 月から三井物産に尿素の供給を開始する予定で、品目は大粒尿素と小粒尿素の両方であると思われる。この契約について、**Qatar Energy** 社の社長兼 CEO は、「戦略的パートナーの一社と長期供給契約を締結し、三井物産との数十年にわたる関係を強化できることを嬉しく思います」と述べた。

* 11 月 5 日、中国の国営 **Sinofert** 社はカナダの **Canpotex** 社との間に 2026～2028 年加里輸入覚書を締結した。また、ロシアの **Uralkali** 社の子会社 **FSS** 社との間に加里の陸送輸入覚書をも締結した。覚書の締結により、加里の安定輸入が保証され、中国国内加里肥料の供給安定化を確保することになる。

* 11 月第 2 週（10～16 日）の国際国際相場は地域により異なる。東半球では、中国産尿素と中東産大粒尿素がやや値上がり、東南アジア産大粒尿素がやや値下げである。カタールの **QatarEnergy** 社は 11 月 12 日の販売入札に FOB415 ドル／トンで大粒尿素を販売し、ブルネイの **BFI** 社が逆に FOB405～415 ドル／トンで 12 月の大粒尿素の販売契約をした。中国産尿素は 4 回目の輸出割当数量を受け、FOB 価格が若干上がった。

西半球では、EU のバイヤーは高値の前に躊躇して、買いを控えている。そのために、エジプト産大粒尿素の FOB 価格が 480～500 ドル／トンに下がった。南米市場も落ち着き、大粒尿素の CFR ブラジル価格が 418～425 ドル／トンでやや下がった。

* 中国税関の速報によれば、2025 年 10 月の中国化学肥料輸出量が 70.9%増の 506 万トン。その内訳は尿素が 40000%増の 120 万トン、硫酸が 14.9%増の 201 万トン、DAP が 11.7%減の 36 万トン、MAP が 277.8%増の 25 万トン。

2025 年 10 月の中国化学肥料輸入量が 23.6%増の 136 万トン。その内訳は塩化加里が 26.0%増の 121 万トン、NPK 化成肥料が 8.3%増の 13 万トン。

* **Global Trade Tracker** のデータによれば、インドネシアの 2025 年 1～9 月塩化加里輸入量が 39%増の 370 万トン、新記録となった。カナダからの輸入量が 45%増の 150

万トン、ロシアからの輸入量が 47%増の 130 万トン、ベラルーシからの輸入量が 88%増の 34.2 万トン、ラオスからの輸入量が 24%減の 11 万トンである。

- * 調査会社 Argus Media 社の報道によれば、10 月の化学肥料国際相場は尿素、りん酸塩、加里の価格下落により、若干購入しやすくなった。尿素価格の下落はここ数ヶ月で最も激しく、10 月の中東 FOB 価格は、8 月の高値（平均 500 ドル/トン強）から 100 ドル/トン以上下落した。価格下落の要因は、中国からの輸出再開がインドからの旺盛な輸入需要を上回り、買い手が躊躇したことである。中国からの新たな尿素輸出の可能性が不透明だったため、市場参加者の多くは 10 月に入っても慎重な姿勢を維持した。ただし、10 月末以降は、EU の炭素国境調整メカニズム（CBAM）が来年 1 月 1 日に施行される前に、EU での買いが殺到したため、価格がやや押し上げられる。

りん酸塩価格は早くも下落し始めている。モロッコ産 DAP 輸出価格は、8 月初旬のピークから中間値で 93 ドル/トン下落し、平均 800 ドル/トン弱（FOB）となったが、それでも 2022 年 10 月以来の高値である。ただし、第 4 四半期に入る世界的な需要の季節的な減少に加え、主要輸出市場（特にインド）における DAP 在庫の増加、そして幅広い価格への懸念が価格を圧迫した。ブラジルのバイヤーは、大豆播種の前により廉価の NP 化成肥料と過リン酸石灰に目を向け、MAP の購入を控えたため、同様に MAP 価格を押し下げた。

加里価格は比較的緩やかな下落にとどまり、8 月に 28 ヶ月ぶりの高値である 1 トンあたり 314 ドルを記録して以来、わずか 6 ドルの下落にとどまっている。7 月以降、主要輸入市場のほとんどで塩化加里の需要は減速しており、十分な在庫が 2025 年の残りの期間の需要の大部分をカバーできる見込みである。

- * 11 月 23 日、中国側はロシアの Uralukari との間に 2026 年塩化加里輸入基本契約を締結した。塩化加里の CFR 中国価格は 348 ドル/トンで、2025 年 6 月に締結した 2025 年の基本契約より 2 ドル高くなる。

- * 10 月から DAP の国際相場は下落傾向がはっきり見られた。中国産 DAP の輸出割当期間の末期になり、大量の輸出が価格の下落を引き起こした。11 月上旬の CFR ベトナム価格が 709～719 ドル/トンで、CFR インド価格が 699～700 ドル/トンで、8～9 月の CFR800 ドル超に比べ 100 ドルも下がった。最大輸出国のモロッコでは FOB 価格がすでに 660～750 ドル/トンに下がり、6～9 月の 750～800 ドル/トンより 50～90 ドルも安くなった。

DAP 相場の弱気に影響され、MAP も値下げした。11 月中旬の CFR ブラジル価格が 630～650 ドル/トンで、7～8 月の 750 ドル/トンより 100 ドル以上も下がった。

- * 11月20日に開札されたインド IPL 社の尿素国際入札に 24 社計 472 万トンが応札した。東海岸向けの応札数量 226 万トン、最低応札価格 CFR 418.4 ドル／トン、西海岸向けの応札数量 246 万トン、最低応札価格 CFR419.9 ドル／トン。前回 10 月 15 日に開札されたインド RCF 社の尿素国際入札に比べて、応札数量が 102 万トン増、最低応札価格が 17.9～23.4 ドル高くなった。
- * カナダの Nutrien 社はトリニダードのアンモニアライン 4 基と尿素ライン 1 基を計画的に閉鎖した後、アメリカテキサス州 Texas City に位置する Gulf Coast アンモニア工場（GCA）の製品を活用して、アンモニアスポット市場で積極的に活動してきた。Gulf Coast アンモニア工場の年間生産能力が 130 万トンで、Nutrien 社は主に北アフリカとヨーロッパに販売することで、トリニダード減産の影響を最小限に抑える考えである。
- * 11月20日開札されたインド IPL 社の尿素国際入札には CFR 東海岸 418.4 ドル／トンで 55.77 万トン、CFR 西海岸 419.9 ドル／トンで 95.75 万トンの計 151.5 万トンが契約された。
- * 11月下旬の DAP 国際相場は下落し続けている。大需要家のインドとパキスタンは国内に一定量の在庫を持っているため、低価格を要求している。11 月第 4 週、サウジアラビアの Maaden 社は CFR680 ドル／トンでインド IPL 社に 6 万トン DAP を販売し、インド RCF 社の DAP と MAP 購買入札にロシアが CFR660 ドル／トンで応札した。インド輸入業者の 12 月 DAP 価格に対する期待値は CFR650 ドル／トン、パキスタン輸入業者の期待値は CFR670 ドル／トンといわれる。
- * 11 月第 4 週（24～30 日）の尿素国際相場はインド IPL の尿素国際入札の契約状況（151 万トンの契約）を受け、下落傾向がさらに明らかになった。主な輸出国のロシア、中東、東南アジア、ナイジェリアは一斉に値下げに動き出した。エジプトの Mopco 社は FOB460 ドル／トンで EU に 2 件の大粒尿素を販売し、イラン産大粒尿素の FOB 価格は 365～377 ドル／トンに下がった。中国産尿素は逆に 5～15 ドル値上げられた。
- * 調査会社 Argus Media 社の報道によれば、エジプトはりん資源の有効利用を目指して、りん鉱石の採掘量を増加する一方、りん酸肥料工場の新設にも加速する。りん鉱石採掘最大手の Misr Phosphate 社は 2025 年末に年間りん鉱石採掘処理能力を 700 万トンに増強する一方、2026 年第 2 四半期から Ain Sokhna に DAP と化成肥料工場を建設する。また、Misr Phosphate 社は中国企業と接触して、合弁でりん鉱石採掘と販売に

についても交渉している。2024年エジプトリン鉱石輸出量 520 万トン、2025 年に 600 万トンの輸出を目指している。

- * ブラジル国際貿易事務局（Secex）の最新データによれば、2025 年中国はロシアに代わって、ブラジル最大の化学肥料輸入元となることがほぼ確定される。2025 年 1～10 月ブラジルの化学肥料輸入量が 4.6%増の 3830 万トン、金額では 16%増の 132 億ドル。中国からの輸入量が 51%増の 977 万トン、初めてロシアからの輸入量（972 万トン）を超えた。化学肥料輸入元は数量の順では中国、ロシア、カナダ、モロッコ、エジプトである。

また、2025 年 1～10 月ブラジルが 86.3 万トン農薬を輸入し、昨年同期より 33%増えた。中国からの輸入が約 70%、インドからの輸入が約 11%、この 2 か国で農薬輸入量の 80%以上を占める。

大手各社の営業業績

- * カナダの Nutrien 社は 2025 年第 3 四半期の業績を発表した。7～9 月の売上高が 12%増の 60 億 700 万ドル、調整後 EBITDA が 42%増の 14 億 3100 万ドル、純利益 4 億 6900 万ドル。肥料部門ではアンモニア生産量 143.6 万トン、販売量 64.6 万トン；尿素販売量 68.7 万トン；りん酸肥料生産量（P₂O₅ 換算）37.8 万トン、販売量 47.2 万トン；塩化加里生産量 360.7 万トン、販売量 405.9 万トン。
- * アメリカの Mosaic 社は 2025 年第 3 四半期の業績を発表した。7～9 月の総売上高が 22.8%増の 34 億 5210 万ドル、EBITDA が 79.9%増の 8 億 600 万ドル、純利益が 336.9%増の 4 億 1100 万ドル。肥料部門では塩化加里販売量 230 万トン、リン酸肥料販売量 160 万トン、化成肥料販売量 280 万トン。
- * アメリカの CF Industries 社は 2025 年第 3 四半期の業績を発表した。生産と販売量の増加および販売価格の上昇で、売上高は 21.1%増の 16 億 5900 万ドル、EBITDA は 31.8%増の 6 億 7100 万ドル、純利益は 27.9%増の 3 億 5300 万ドル。肥料部門ではアンモニアは生産量 244 万トン、販売量 109 万トン、尿素は生産量 101 万トン、販売量 93.9 万トン、尿素硝安液肥（UAN）は生産量 165 万トン、販売量 156 万トン、硝安は生産量 36 万トン、販売量 38 万トン。
- * ドイツの加里メーカーK+S 社は 2025 年第 3 四半期の業績を発表した。売上高は 1.5%増の 8 億 7900 万ユーロ、EBITDA は 68.2%増の 1 億 1100 万ユーロ。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * オーストラリアの Minbos Resources 社はアフリカのアンゴラにある Capanda グリーンアンモニアプロジェクトを開発するために、アメリカの Talus Renewables 社との間に小型モジュラー式のアンモニア合成装置の拘束力のある基本合意書（HOA）を締結したことを発表した。

基本合意書（HOA）は Talus Renewables 社が生産能力 1～10 トン／日の小型アンモニア合成モジュールを複数提供して、Minbos Resources 社がアンゴラの国営電力送電網から低価格の水力発電（1kWh あたり 1.1 ドル）を利用し、輸出向けのグリーンアンモニアを生産するという内容である。完成と最初の販売は 2028 年第 1 四半期に予定されている。

- * 台湾の Green On 社は新たに 2 基のマンハイム硫酸加里製造装置を追加して、現在年間 8 万トンの硫酸加里生産能力を 10 万トンに増強する。現在、台湾の規制要件に従い、追加工事は順調に進んでいる、早ければ 2026 年 4 月にも商業生産を開始する予定である。

同じ台湾の硫酸加里メーカーである Sesoda 社も現在年間生産能力 14 万トンを拡張する計画を策定している。ただし、拡張後の生産能力及び商業生産開始時期については未定である。

- * アメリカの Wabash Valley Resources 社はインディアナ州 West Terre Haute に低炭素アンモニア（ブルーアンモニア）プラントを増設する。当該プラントは年間 50 万トンブルーアンモニアを生産し、約 165 万トン CO₂ を回収する。スイスの Casale 社は技術ライセンサーとなり、独自の N-LOOP™アンモニアプロセスを提供する。アメリカの Honeywell 社は炭素回収技術を提供し、韓国の SAMSUNG E&A 社は CO₂ 回収・地下貯留装置の設計・調達・製造（EPF）を担当する。2028 年に完成・稼働する。

- * イギリスの Osiris Phosphate 社は上エジプト紅海県の Safaga に 12 億ドルを投資して、年間生産能力 69.2 万トンのリン酸工場を建設する。建設は 2 期に分けて行い、年間生産能力 34.6 万トンの第 1 期工事はすでに着工している。この工場は、エジプトの豊富なリン資源を有効利用して、付加価値産業の拡大、持続可能な化学品生産の推進、そして肥料生産能力の強化を通じた世界の食料安全保障への貢献という。

- * ナイジェリアの Dangote Fertiliser 社は Lekki 工業団地にある肥料複合施設を拡張し、新たに 4 基のアンモニア生産プラントと 4 基の大粒尿素プラントを増設する。4 基のアンモニアプラントは、それぞれ定格生産能力 2500 トン／日、4 基の新設尿素プラント

トは、それぞれ定格生産能力 4,235 トン／日を有し、Dangote の大粒尿素年間生産能力は約 265 万トンから 800 万トン以上に増加する。Dangote 社は 2021 年 Lekki 肥料複合施設に 2 基の大粒尿素プラント（それぞれ生産能力 3,850 トン/日）を完成し、稼働させた。

- * エジプトのりん鉱石生産者 **Misr Phosphate** 社はりん酸肥料の製造に参入することを決めて、エジプト北東部の **Ain Sokhna** にリン酸肥料工場を建設し、DAP/MAP/NPK 化成肥料を生産する。工場の年間生産能力はりん酸 32 万トン、硫酸 102.3 万トン、DAP60 万トンである。Misr Phosphate 社の紅海鉱山から年間 125 万トンリン鉱石をこの工場に供給する予定である。
- * カザフスタンの **KazAzot Prime LLP** 社はカザフスタンの **Mangystau** にカザフスタン初の窒素肥料総合工場を建設する。当該工場の年間生産能力はアンモニア 66 万トン、尿素 57.7 万トン、硝酸 39.5 万トン、硝安 50 万トン。2025 年 1 月着工、2028 年末完成、2029 年 1 月から稼働する計画である。日本の東洋エンジニアリング社は尿素造粒技術ライセンス、プロセス設計パッケージ（PDP）、主要機器調達、および関連する技術サービスの提供を担当し、中国の五環エンジニアリング社は EPC（設計・調達・建設）を担当する。
- * アメリカの **Cyan H2** 社はモンタナ州にグリーン水素から得たアンモニアを原料として、年間 65 万トン尿素を生産する **Eastern Montana** 肥料プロジェクトを実施する。アメリカの **KBR** が当該プロジェクトに技術、エンジニアリング、調達、建設管理サービスを提供する。肥料工場は 2026 年末に着工、2029 年に商業運転を開始する予定である。
- * オーストラリアの **Woodside Energy** 社はアメリカテキサス州 **Beaumont** に位置するブルーアンモニアの **Beaumont New Ammonia project** のフェーズ 1 がすでに完成し、試運転を開始する準備が整い、2026 年から正式稼働・出荷することを発表した。
当該プロジェクトは、フェーズ 1 で年間 110 万トンの生産能力があり、さらにフェーズ 2 では年間 110 万トンを追加できるように拡張性を考慮して設計されている。2024 年 8 月 **Woodside Energy** 社はオランダの **OCI** グローバル社から当該プロジェクトを買収し、買収金額は 23 億 5,000 万ドルである。
- * ナイジェリアの **Dangote Fertilizer** 社はエチオピアの **Ethiopian Investment Holdings** と合併して、エチオピアの **Gode** に窒素肥料工場を建設する。工場は生産能力

2500 トン／日のアンモニアプラント 2 基と生産能力 4,235 トン／日の大粒尿素プラント 2 基から構成され、年間生産能力 300 万トンの尿素である。アンモニア合成プラントはデンマーク Topsoe 社の SynCOR 技術、尿素製造はイタリア Saipem 社の Snamprogetti™尿素技術、大粒尿素造粒はドイツ Thyssenkrupp Uhde 社の UFT 流体床造粒技術を採用する。Dangote 社は 60%、Ethiopian Investment 社は 40%の株式を保有する。投資額約 25 億ドル、建設開始日を明示せず、着工から 40 か月以内に完了することを目標としている。

その他

- * 世界銀行グループの民間投資部門である国際金融公社（IFC）は南米パラグアイに ATOME 社の Villeta 低炭素肥料工場プロジェクトの 6 億 3000 万ドル総融資パッケージのうち、最大 1 億ドルの融資を承認した。Villeta 低炭素肥料工場は年間 26 万トン低炭素肥料を生産する計画である。
- * ポーランドのベラルーシ国境閉鎖に続いて、リトアニア政府も 10 月 29 日から 12 月 1 日までの期間にベラルーシとの国境を閉鎖し、ベラルーシの貨物をリトアニアに經由してロシアのカリーニングラード港に運ぶことを禁ずることを発表した。
ベラルーシは内陸国で、2021 年までにリトアニアの Klaipeda 港を利用して、毎月 60～120 万トン加里肥料を輸出していた。2021 年 EU によるベラルーシへの制裁以降、特に 2022 年ロシアによるウクライナへの侵攻以降、ベラルーシ貨物が Klaipeda 港の利用ができなくなり、ロシアの港を利用することに変更された。しかし、最寄りのロシアのカリーニングラード港を利用するにはポーランドまたはリトアニアを通過する必要があり、サンクトペテルブルク港またはムルマンスク港などほかのロシアの港を利用する場合は陸送距離が 1.5～4 倍延びるほか、ロシアの港も荷役の余力がない。
- * 10 月 29 日、アメリカエネルギー省（DOE）は Wabash Valley Resources 社のインディアナ州 West Terre Haute にある低炭素アンモニア（ブルーアンモニア）プラントの増設プロジェクトに 15 億 5,900 万ドルのエネルギー優位性資金調達（EDF）プログラム融資を与えると発表した。今回の 15 億 5,900 万ドル条件付き融資は近年におけるアメリカ国内肥料生産への連邦政府による最大規模の投資の一つである。この取り組みはアメリカで最も重要な農業地域の一つであるイースタン・コーンベルト地域における、国内のアンモニア生産量の増加、食料安全保障の強化、そして輸入への依存度の低減の重要性を強調するものである。

この連邦政府の融資を受け取ってから、Wabash Valley Resources 社はプロジェクトパートナーに対し着工通知（Notice to Start）を発行する予定である。着工は 2025 年末、商業運転開始は 2028 年を予定している。

- * EU は 2026 年 1 月 1 日から輸入アンモニアと尿素に対して、認定されるグリーンアンモニアとブルーアンモニアを除き、新たな炭素国境調整メカニズム（CBAM）関税の対象となることを決定した。
- * EU は域内の肥料産業が衰退する懸念から、2025 年 7 月からロシアからの輸入肥料に累進課税を導入した。ロシアとベラルーシから輸入される尿素および窒素肥料に 6.5%の従価税と 1 トンあたり 40 ユーロの関税、DAP、MAP、NPK、NP、その他一部のリン酸肥料の輸入にも 1 トンあたり 45 ユーロの関税が上乗せされる。

また、2026 年から 2028 年にかけて、この 2 つの製品群の輸入関税はそれぞれ最高 315 ユーロ/トンと 430 ユーロ/トンに引き上げられるが、累計輸入量が 2025～2026 年に 270 万トン、2026～2027 年に 180 万トン、2027～2028 年に 90 万トンを超えた場合、上記の最高関税が即時適用されることも見込まれている。

2022 年のエネルギー危機の影響で天然ガス価格の記録的な高騰により、生産コストが急騰していた域内生産よりも廉価のロシア輸入品に頼ってきた。2024 年にはロシアからの輸入量は EU の尿素および窒素肥料輸入量の 30%にあたる 440 万トン（15 億ユーロ相当）を占めていた。2023 年ロシアからの尿素および窒素肥料輸入量 360 万トン（12 億 8000 万ユーロ）と比較して大幅な増加であり、ロシアへの経済的依存度の高まりを示唆している。

ただし、追加関税が導入されて以来、最新の通関データによると、ロシアからの尿素輸入量は、2025 年 6 月の記録的な輸入量と比較して、7 月と 8 月には約 3 分の 2 減少し、10 万トン強にとどまった。

ロシア産肥料輸入に対する EU の課税と、2026 年からの炭素国境調整メカニズム（CBAM）の完全実施が相まって、EU のアンモニアと尿素の生産が活性化する可能性があるが、肥料生産に必要な天然ガスの増加がガス需要に与える影響は最大の不確実性である。
- * ブラジルに開催中の COP30 に於いて、世界水素協議会と Breakthrough Agenda、国連工業開発機関（UNIDO）、PepsiCo、3Degrees 低排出肥料連盟、ロッキーマウンテン研究所、グリーン市場活性化センター、持続可能な開発のための世界経済人会議、国際肥料工業協会（IFA）、ミッション・ポッシブル・パートナーシップ、ハイドロジェ

ン・ヨーロッパ、アンモニアエネルギー協会などを組んで、LEAF イニシアチブを結成し、低排出アンモニアベースの肥料の大規模導入を要請している。

現在のアンモニア系肥料の生産は、全体で 5 億 1000 万トンの温室効果ガスを排出している。必須栄養素の供給を維持し、食料安全保障と手頃な価格を確保しながらこれらの排出量を削減するには、強力な官民連携に支えられた、業界全体にわたる包括的な取り組みが必要という。

LEAF イニシアチブは発表した官民行動声明では、下記 3 津の主要な優先事項を特定している。

- コストギャップを埋めることで大規模な投資を加速し、需要を活性化する。
- 標準と市場ベースのメカニズムを通じて投資家の信頼を高め、取引コストを削減する。
- 政策枠組みと金融手段に関する官民連携を推進する。

この行動声明は、11 月 20 日の COP30 農業、食料システムと食料安全保障、漁業、家族農業のテーマ別会合に承認を待つという。

- * 11 月 15 日、ホワイトハウスが発行した大統領令 14257 号の修正により、トランプ大統領は今年 4 月から実施されたアメリカの輸入関税からロシア以外から輸入される主要な窒素肥料とリン酸肥料を免除すると発表した。ただし、関税が免除される肥料リストには、尿素、硝安、UAN、硫安、TSP、DAP、MAP が含まれるが、アンモニアが含まれていない。塩化加里と硫安加里は最初から輸入関税が免除されていた。

関税の修正は、11 月 13 日から輸入される商品に対して発効する。

トランプ政権は今年 4 月からロシアを除くほとんどの肥料輸出国に 10～15%の輸入関税を課し、一部のサプライヤーが最大 30%の関税に掛けられる。その結果、肥料貿易に大きな変化が生じ、肥料価格を数年ぶりの高値に押し上げてきて、2025 年全米の肥料消費量を大幅に抑制している。今回の発表は、肥料価格を高騰させた輸入関税をわずか 7 カ月後に撤廃し、来春に向けて農家生産コストの削減と農産物輸出競争力の強化にある程度の確実性を与える。

- * 米州開発銀行グループの IDB Invest はイギリスの Atome 社が南米パラグアイに計画中の Villeta 低炭素肥料工場プロジェクトに最大 2 億ドルの融資パッケージを承認したと発表した。これは世界銀行グループの IFC が Villeta プロジェクトに対する総額 1 億ドルの融資パッケージを承認したことに続き、最終投資決定（FID）に向けたもう一つの重要なステップとなる。Atome 社の Villeta プロジェクトはパラグアイの水力発電から年間 145MW を利用して、グリーン水素を生産し、アンモニアを合成して、硝酸カル

シウム・アンモニウム (CAN)肥料を生産し、ラテンアメリカに供給する。総投資額 6 億 3000 万ドル、年間 CAN 生産能力 26 万トンを計画している。

＊ ブラジルに開催される COP30 に於いて、ブラジル政府とイギリス政府は「肥料に関する Belém 宣言」を発表した。宣言は食料安全保障、自然保護、そして気候保全のために、あらゆる形態の肥料の生産量を改善し、その利用を最適化するために行動するという内容である。

＊ オランダの OCI グローバル社は子会社 OCI Ammonia Holding の株式 100%をチェコの窒素肥料メーカーである AGROFERT に総額 2 億 9,000 万ユーロで売却することで合意したと発表した。この売却は、規制当局の承認とその他の手続きおよび OCI NV 株主の承認を条件として、2026 年上半期に完了する予定である。

OCI Ammonia Holding は、オランダのロッテルダムに OCI のアンモニア輸入・保管ターミナルである OCI Terminal Europoort BV (OTE) と欧州顧客にアンモニアを提供する OCI Ammonia Distribution BV (OAD)を所有して、欧州のアンモニア輸入販売の大手である。

＊ ルクセンブルクの Adecoagro SA 社はカナダの Nutrien 社が所有する南米最大の大粒尿素メーカーProfertil SA 社の 50%株式を 6 億ドルで買収する拘束力のある提案を提出した。買収は 2025 年 12 月 31 日までに完了する予定である。

アルゼンチン Bahía Blanca 市に位置する Profertil SA 社の窒素肥料工場は年間生産能力 79 万トンアンモニアと 130 万トン大粒尿素を有し、アルゼンチンの尿素消費量の約 60%を供給している。買収後 Adecoagro SA 社は Profertil SA 社の 90%株式、アルゼンチン協同組合協会が残りの 10%を所有する。

＊ モロッコのリン酸メーカーOCP 社と国連工業開発機関 (UNIDO) はアフリカ全土および世界規模で農業変革、低炭素産業開発、デジタルイノベーション、技能開発を推進する戦略的協力枠組みを確立するための 5 年間の更新可能な覚書 (MoU) に署名した。

この覚書に基づき、OCP 社は統合農業バリューチェーンとアグリビジネスの強化、グリーン水素およびグリーンアンモニアの開発支援、産業プロセスの脱炭素化の推進において UNIDO 協力し、インダストリー4.0、人工知能 (AI) 、スマートで持続可能な工業団地の開発における協力も含まれている。